

PNCM実践例記入フォームに記載された実践例紹介

| | |
|---|--|
| 子どものおよその年齢、性別、疾患、検査・処置の内容 | 4歳、女の子、小児外科、手術前日(入院日)の夕方にかん腸の処置 |
| ① 担当であることを子どもに挨拶・自己紹介している | 子どもに自己紹介していない |
| ② 医療／看護者／親のうちの誰かが、検査・処置について、子どもに説明が済んでいるか、確認している | 確認している |
| ③ 検査・処置があることを、子どもはいつ頃教えてほしいと思っているか、事前に子どもに確かめている | 確かめていない |
| ④ 検査・処置をいつ実施するか子どもに伝えている | 伝えている |
| ⑤ (説明時／検査・処置時に)親が付き添うか否かは、子ども・親の希望にそって決めている | 子どもの希望も親の希望も聞いていない |
| ⑥ 親の待機場所を子どもと親に確認している | 子どもにも親にも確認していない |
| ⑦ 子どもへの説明内容と方法を親に確認している | 確認していない |
| ⑧ (親がいても親とは別に)子どもの目の高さで、検査・処置の目的・内容(方法/手順)を子どもに説明している | 説明している |
| ⑨ 子どもが「イヤだ」と抵抗し始めた場合、ヤル気になるタイミングを待っている | 待っている |
| ⑩ 子どもが恐怖感を感じないような工夫をしている | 工夫...。「痛くないよ」という声掛けと、お母さんと一緒のお部屋で。 |
| ⑪ 検査・処置の進行に合わせて順々に説明したり声かけしたりしている | している。 |
| ⑫ 子どもが言ったり聞いたりしたことに、適切に答えている | 答えている「つもり」です。 |
| ⑬ 子どもが泣いても押えつけずに、他の方法で対処している | 押さえつけずにしたいので、声掛けを行ったりタイミングを待ったりしたが、結局押さえつけてしまいました。 |
| ⑭ お気に入りのものを持参することを認めている | 認めている。 |
| ⑮ 検査・処置から他へ向く様に子どもの気をそらしている | 気をそらすようにしている。 |
| ⑯ 検査・処置が長引いた場合、途中経過を親に知らせている | 知らせている |
| ⑰ 医療従事者同士で検査・処置に関係ないことを談笑しないようにしている | している。 |
| ⑱ まだ全過程が終了していない状況で、あたかも全過程が終了したような表現はしないようにしている | している。 |
| ⑲ 検査・処置が終わったことを、ことばで伝えている | 伝えている。 |
| ⑳ 子どもの頑張りを褒めている | 褒めている。 |
| ㉑「ご心配でしたね」と親の気持ちをねぎらっている | ねぎらっていない。 |
| ㉒親に対して、子どもが頑張ったことをほめるように働きかけている | 働きかけている。 |
| ㉓検査・処置後、これから守るべき注意事項を、説明している | 説明している。 |
| ㉔子どもの検査・処置後の反応を確認している | 確認している |

| | |
|---|--|
| 子どものおよその年齢、性別、疾患、検査・処置の内容など | 1歳1か月男児 停留精巣 手術後の処置 点滴固定 |
| ① 担当であることを子どもに挨拶・自己紹介している | 挨拶時、視線を合わし声掛けしたが、 <u>不安と恐怖心もあったのか泣き出してしまった</u> |
| ④ 検査・処置をいつ実施するか子どもに伝えている | 1歳1ヶ月でもあったため、母にしか説明はしなかった |
| ⑤ (説明時／検査・処置時に)親が付き添うか否かは、子ども・親の希望にそって決めている | 術前、術後についての付き添いは児の精神的安寧のために必要であったためお願いした。母も「わかりました。」と了承してくれた。 |
| ⑥ 親の待機場所を子どもと親に確認している | 1歳1ヶ月と理解力は十分ではないが、手術室へ行く前にはママが待っているからねと伝えながら手術室へ向かった。母には病室で待っていただくように伝え、了承されていた |
| ⑦ 子どもへの説明内容と方法を親に確認している | していなかった |
| ⑨ 子どもが「イヤだ」と抵抗し始めた場合、ヤル気になるタイミングを待っている | 術後の帰室時、点滴固定テープがゆるく、巻き替えしようとするも、手を振り激しく啼泣したため、「嫌だよ、手術も頑張ったもんね。よく頑張れたね。」と声をかけ、しばらく待った。ベッドサイドでしばらく付きそも治まることがなかった。 <u>母に説明し、抱っこしてもらい、看護師2名にて、固定し直した。</u> 児はずっと啼泣していた。母は「頑張れ頑張れ」とずっと声をかけてくれた。 |
| ⑩ 子どもが恐怖感を感じないような工夫をしている | 術後の検温をするときには、 <u>児が好きなアンパンマンの音が出るおもちゃを持っていき、気を紛らわした。</u> 児は啼泣することなく笑顔を見せてくれ、夢中になって遊んでいた。 |
| ⑬ 子どもが泣いても押えつけずに、他の方法で対処している | 点滴固定巻き替えの際、嫌がっていたが少し様子を見るも治まらなかったため、結果母に抱っこしてもらい看護師2名にて、実施せざるを得なかった。 |
| ⑭ お気に入りのものを持参することを認めている | 児はアンパンマンがお気に入りだったため、「これ持っていこうか」と、声掛けし、おもちゃを持って手術室へ向かった。 <u>最初は泣いていたが、おもちゃをみると手に取り、ボタンを押したり、おしゃべりし機嫌もよくなり手術室へ入ることが出来た。</u> |
| ⑮ 検査・処置から他へ向く様に子どもの気をそらしている | 点滴固定の際に、処置している姿が見えないように、母に声をかけてもらったり、おもちゃで気を引いてもらうようにした。母は処置中児を励ますように声をかけたりトントンしてくれていた。 |
| ⑳ 子どもの頑張りを褒めている | 術後、検温の後は「よく頑張れたね。えらいね。頑張れたからもう終わったよ。」としっかり声掛けが行えた。 <u>児も終わったことがわかるのかしばらくすると落ち着き、おもちゃで遊びはじめた。</u> |
| ㉑「ご心配でしたね」と親の気持ちをねぎらっている | 術後、母に「おわりました。頑張りましたね。」と声をかけられた。母も「ありがとうございます。」とほっとされたような表情であった。 |
| ㉓検査・処置後、これから守るべき注意事項を、説明している | 術後の絶飲食時間、安静度を母にお伝えし、時間になれば声をかけることを伝えた。母は「伝えてくれるならありがたいです。その時間まで安静に待っていただければいいですね。」と理解されていた。 |
| ㉔子どもの検査・処置後の反応を確認している | 安静、絶飲食時間解除後、看護師が「もう動いても大丈夫です。飲み物も飲めますよ」と声をかけに行くと、母が「やったね。もう飲めるって喉乾いたよね。飲もうね。」と児に話かけ、児も「ブーブー」と喃語を話し嬉しそうにお茶を勢いよく飲んでいた。 |

| | |
|---|--|
| 子どものおよその年齢、性別、疾患、検査・処置の内容など | 2歳 11か月 女児 喘息性気管支炎 入院治療のため点滴採血施行 吸入の実施 |
| ① 担当であることを子どもに挨拶・自己紹介している | こんにちは 看護師さんですとあいさつをした。母の抱っこそのまま会釈してくれる |
| ② 医療／看護師／親のうちの誰かが、検査・処置について、子どもに説明が済んでいるか、確認している | 看護師が母親の前で採血用の絵本を用いて説明をした |
| ③ 検査・処置があることを、子どもはいつ頃教えてほしいと思っているか、事前に子どもに確かめている | 外来受診後、当日の処置であったため確認できていません |
| ④ 検査・処置をいつ実施するか子どもに伝えている | 看護師が検査の準備を確認している間に、実施者が検査の説明をしに行きそのまま処置室へ案内している |
| ⑤ (説明時／検査・処置時に)親が付き添うか否かは、子ども・親の希望にそって決めている | 基本的には分離することが多いですが、 子どもが希望したため希望通りに付き添いとした。ただし、じっとできる子どもに限ると本人と保護者に伝えた |
| ⑥ 親の待機場所を子どもと親に確認している | 対面抱っこで実施したため確認していません |
| ⑦ 子どもへの説明内容と方法を親に確認している | 絵本を用いて説明することを保護者へも伝えるが詳しい内容は子どもと同時に聞く形となっている |
| ⑧ (親がいても親とは別に)子どもの目の高さで、検査・処置の目的・内容(方法/手順)を子どもに説明している | 同じベンチタイプの椅子に座って子どもに向けて説明している。目線は子どもの高さに合わせている |
| ⑨ 子どもが「イヤだ」と抵抗し始めた場合、ヤル気になるタイミングを待っている | はじめは小さいため臥床で実施しようとしたが、激しく嫌がるため一度座位とした。 |
| ⑩ 子どもが恐怖感を感じないような工夫をしている | 保護者の抱っこから離れないため、 抱っこでするか聞くとうなずくため対面抱っこですることを提案した。 ただし、手を出したり動く場合は臥床して実施することを伝えた。 |
| ⑪ 検査・処置の進行に合わせて順々に説明したり声かけしたりしている | 絵本で説明したように駆血帯の色を選び、リボンを結ぶ、冷たい消毒をする、ちくっと痛い と順重に説明をした。 |
| ⑫ 子どもが言ったり聞いたりしたことに、適切に答えている | 痛いというため、 痛いね頑張ってるよ、上手だよと声をかけた。 |
| ⑬ 子どもが泣いても押えつけずに、他の方法で対処している | 今回の事例では痛いと言っていたが、あまり動くことがなかったため、押さえつけることはなかった。 |
| ⑭ お気に入りのものを持参することを認めている | お気に入りの物の持参はなかった |
| ⑮ 検査・処置から他へ向く様に子どもの気をそらしている | プレパレーションの際に、 動画視聴ができることを伝えているため好きな動画を流していた。 |
| ⑯ 検査・処置が長引いた場合、途中経過を親に知らせている | 一緒に処置を受けていたため、知らせていない |
| ⑰ 医療従事者同士で検査・処置に関係ないことを談笑しないようにしている | 関係のないことは話していない |
| ⑱ まだ全過程が終了していない状況で、あたかも全過程が終了したような表現はしないようにしている | 一番痛いところは終わったよと伝えたが、次することを口頭で説明しながら実施した |
| ⑲ 検査・処置が終わったことを、ことばで伝えている | 点滴の固定が終わったところで注射は終わったよと伝えた。ゼーゼーが良くなるお薬を入れていくことを伝えた。 |
| ⑳ 子どもの頑張りを褒めている | 動かずにできたことを褒めて、ご褒美を選んでもらった。 |
| ㉑「ご心配でしたね」と親の気持ちをねぎらっている | 上手にできましたね、頑張りましたねと伝えた。 |
| ㉒親に対して、子どもが頑張ったことをほめるように働きかけている | 2歳11か月で看護師の話聞き入れ、動かずにできることはすごいことなのでたっぷり褒めてもらうこと、お父さんにも上手にできたことを伝えてもらうといいなと伝えた。 |
| ㉓検査・処置後、これから守るべき注意事項を、説明している | 点滴確保後、大事なお薬が入っているので大事にするように、手が痛かったら保護者に言うように子どもに伝えた。保護者には点滴漏れリスクについて、観察項目を伝えた。 |
| ㉔子どもの検査・処置後の反応を確認している | 処置後にご褒美を選んでもらうタイミングで反応は見ていますが、具体的に点滴してどうでしたかと今回は聞いていません。すごく嫌がっていた子どもに対しては処置後にどう感じたかを聞くことはあります。 |